

[6] 小学校のはじまり ～学制と徳島の教育～

1873年に徳島にはじめて小学校ができた。徳島県(名東県)では、小学校がどのように生まれていったのだろうか、そして教育の内容と方法にはどのような特色があったのだろうか。また、学制による新しい小学校教育は、徳島の人々にどのような影響を与えたのだろうか、説明しよう。

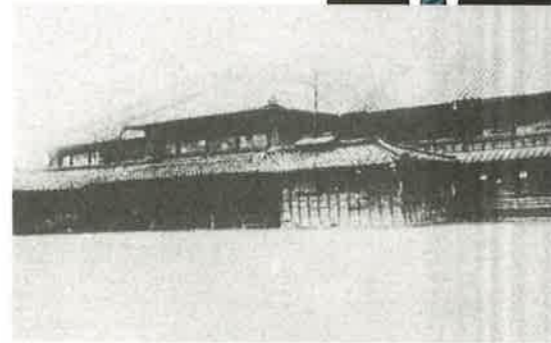
学問は立身のための資本というべきものであって、人間は誰しものが皆、学ばなければならないのである。今までは、学問は武士以上の身分がすることとして、農民・町人・女性は学問のことは考えず、学問の意義を理解していなかった。これは幕府時代の悪習で、文明は広まらず、人々の才能や技能が進歩せず、貧乏し破産し、身をほろぼす者が多く出る理由である。

今後は、華族・士族や農民・町人および女性を問わず、必ず村に不学の家がなく、家に不学の人がなくなるように決意する。人の父兄という者は、よくこの意味を理解して、その子弟を必ず学校へ通わせるようにしなければならない。

【「学事奨励に関する仰せ出され書」一部要約】

学制の公布

小学校の教育が、なぜ必要だと考えられたのかな。



明治時代の小学校・寺島校
〔内町小学校沿革史〕より〕



学制は、何をめざしたのですか。

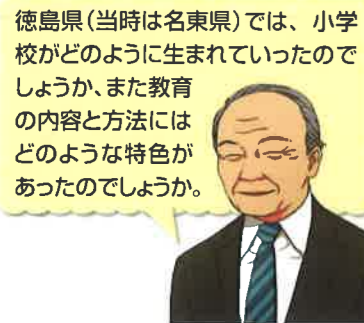
学制の発布と小学校の設立

明治政府は、近代化を進めるためには、国民の教育が欠かせないとして、1872(明治5)年に学制を公布しました。学制では、国民一人一人が身を立てていくために役立つ知識や学問を、身分や財産、性別などに関わりなく国民に等しく義務教育として行うべきだと説きました。学制の定めにより、全国を8つの大学区に、各大学区を32の中学区に、各中学区を210の小学区に分け、その小学区に一つずつ小学校を置くことにしました(人口約600人に1校)。

徳島ではじまった小学校教育

徳島では、1873(明治6)年に、出来島に一番小学校(旧西校)、寺島に二番小学校(旧南校)、助任に三番小学校(旧北校)が開設されました。就学は6才からと決められていましたが、当分のうち男子は10歳から15歳まで、女子は10歳から13歳までの児童を入学させることにしました。そのころの名東県(阿波・淡路・讃岐を含む)では、公立小学校31校、私立小学校439校が誕生しています。

小学校での教育は、かよう下等四年制(6～10歳)とじょうよう上等四年制(10～14歳)の八年制とされ、つづり下等小学校では、綴字・習字・単語・会



徳島県(当時は名東県)では、小学校がどのように生まれていったのでしょうか、また教育の内容と方法にはどのような特色があったのでしょうか。



名東県で発行された小学校教科書

明治初年の教授法

年次	学齢人口(人)	学就学人口(人)	学齢外就学人口(人)	学就学率(%)	全国平均(%)
1873(明治6)年	190,573	56,690	4,887	32.4	28.1
1874(明治7)年	207,835	60,940	3,546	29.3	32.2
1875(明治8)年	129,342	29,946	1,404	29.9	35.3

名東県の小学校就学状況

話・読本・修身・国体・書牘(手紙)・文法・算術・養生法・地理大意・体操・唱歌の14科目が置かれました。また、上等小学校では、その他に史学大意・幾何学大意・算術大意・博物学大意・化学大意・生理学大意などが加えられました。教室では、全員が同じ科目を学ぶようになり、掛図や実物を活用して問答中心の授業が行われました。

学制が徳島の人々に与えた影響

小学校教育が始まったころは、校舎の建設や教員の雇用は全部町村まかせだったので、これは財政上の大きな負担になりました。当時、新設校の校舎の多くに民家や寺社が借用されたことは、こうした特色をよく表しています。また、親にとっては、授業料の負担に加え、子どもは家業や家事の担い手という考え方が強く、就学率はなかなか上がりませんでした。1873年の名東県の就学率は約28%でしたが、各小学校では、授業料を減免したり、親に対して就学の意義を説明するなど地道な努力が続けられました。

学制による新しい小学教育は、徳島の人々にどのような影響を与えたのでしょうか。



チャレンジ

あなたの身近な地域で明治時代に設立された小学校の歴史について調べてみよう。